

重要インフラ間の被害波及軽減に関する調査研究コロキウム

開催案内

開催主旨

首都直下地震では道路、鉄道、水道、電気などのライフラインに被害が発生するばかりか、情報通信、物流、医療、金融、行政サービスなどのインフラ全般に被害が波及し、大きな社会的損失が発生する恐れがある。ニューヨーク大停電や911テロでも被害波及が経験されており、インフラ相互の依存性解明と被害波及対策の開発は急務とされている。我が国では、個々のインフラの地震対策は進んでいる。しかし、インフラ相互の依存関係による被害波及については調査も対策も不十分であり、早急な取り組みが求められる。このような背景から H18 年度の内閣府災害対策総合推進調整費に「重要インフラ間の被害波及軽減のための調査」が取り上げられ、実態調査とモデル化の試みが行われた。

このコロキウムは、調査に加わった研究者、技術者が、被害波及の実態調査結果、波及構造のモデル化、最近の研究事例、事業者の取り組みと課題を報告し、コロキウム参加者と共に議論を深めて今後のステップアップを図るものである。

主 催 (独)防災科学技術研究所川崎ラボラトリー
国土交通省国土技術政策総合研究所

開催場所 キャンパス・イノベーションセンター 国際会議室 (地図 次ページ)
住所:東京都港区芝浦3 - 3 - 6
最寄駅:JR 山手線・京浜東北線 田町駅(徒歩2分)
都営三田線・浅草線 三田駅(徒歩6分)

日 時 平成 19 年 3 月 1 日 13 時 ~ 17 時

参加資格 特に制限はございません。

参加料 無料

参加申込 希望者は所属と名前を添えて下記アドレスにメールでお申し込み下さい。先着順で定員(100名)を超えた場合はお断りすることがあります。

post@kedm.bosai.go.jp

プログラム

(13:00 ~ 13:05)

開会及び趣旨説明 **後藤洋三** (独)防災科学技術研究所川崎ラボラトリー

第一部 (13:05 ~ 14:45)

- ・ 調査の概要ならびに事例調査と被害関連マトリックスへの整理
後藤洋三 (独)防災科学技術研究所川崎ラボラトリー
- ・ 波及構造のモデル化とケーススタディ
鶴田 舞 国土交通省国土技術政策総合研究所
- ・ 東海・東南海・南海地震同時発生時の供給ラインの被害と最適復旧過程に関する話題
佐藤忠信 神戸学院大学 学際研究機構
- ・ 重要インフラ間の相互依存性を考慮した被害波及分析について
能島暢呂 岐阜大学 工学部

第二部 (15:00 ~ 17:00)

- ・ パネルディスカッション「被害波及軽減に関するインフラ事業者の取り組みの紹介」

コーディネータ

山崎文雄 千葉大学 工学部

パネリスト

末広俊夫 東京電力株式会社 技術開発研究所

菜花健一 東京ガス株式会社 防災・供給部

岩本利行 株式会社クボタ 鉄管事業部

山谷哲美 東日本電信電話株式会社 ネットワーク事業推進本部

用害比呂之 中日本高速道路株式会社 中央研究所

島村 誠 東日本旅客鉄道株式会社 研究開発センター防災研究所

小林英木 川崎市 総務局危機管理室

まとめ及び閉会 **小路泰広** 国土交通省国土技術政策総合研究所

